

行田市の誕生と発展

戦後の地方制度改革の中で、市制施行は都道府県が決定することとなり、その要件も緩和されました。忍町は市制施行が戦前からの大きな課題となっていたため、本格的にその準備を始め、昭和24年（1949）3月に「行田市設置上申書」を県に提出しました。その中で、新市の名称について、忍町を忍市としたうえで、名称を変更して行田市とし、新市名の理由を「足袋の行田の名は、全国的にあまりにも有名であるから、とも適切有意義な名称としてこれを踏襲し、行田市とする」と記しています。このことから、町の基幹産業だった足袋産業が市名の由来となったことが分かります。同年5月3日、市制が施行され、行田市は県内6番目の市として新たなスタートを切りました。

昭和28年（1953）に町村合併促進法が施行されると、行田市も周辺の村との合併に向けて動き出しました。どの町村と合併するかを協議した結果、当初は隣接する北埼玉郡内の荒木村など9村と北足立郡の吹上町と小谷村を選定しました。こ

のうち、県の示した試案には北足立郡は含まれていなかったため、当面は北埼玉郡内の9村と協議を進めることとしました。そして昭和29年（1954）3月31日、県内の合併第一号として荒木村・須加村・北河原村との合併が行われ、昭和32年（1957）3月までに埼玉村・星宮村・太井村・下忍村・太田村との合併が行われました。このうち、星宮村・太井村・下忍村は一村全部ではなく、分村され合併となりました。



造営中の富士見工業団地（昭和41年）

昭和30年代に入ると、市の経済を支えていた足袋産業が衣服の洋装化に伴う需要の減退により、慢性的な不況に陥りました。国と県が実施した産地診断では、足袋産業から合成繊維を用いた被服産業への転換などが勧告されました。やがて、時代は高度経済成長期に入り、市でも工業団地の造成や、国鉄行田駅の誘致、行田市駅前土地区画整理事業、新市街地の開発など大規模事業を進めていきました。また、産業文化会館や図書館、市役所などの公共施設の建設も進み、現在ある市の姿の基礎が出来上がっていききました。

（※行田の歴史再発見は今回で終了です。）
（郷土博物館 鈴木紀三雄）

こせにちゃんが行く!

with フラベス

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこせにちゃんが分かりやすく紹介します。

とね 利根サイクリングコース

利根川の岸边沿いにサイクリングロードがあるんだ！その名も「利根サイクリングコース」。

須加の「行田サイクリングセンター」で自転車を無料で貸し出しているから、気軽にサイクリングを楽しめるよ。春になると、菜の花が利根川の河川敷に咲いて、とてもきれいだから遊びにきてくださいね。

皆さんにとっておきの情報をお知らせするよ。利根川や江戸川沿いなどのサイクリングロードを利用すると、自転車で東京ディズニーリゾートまで行けるんだって。自信のある人はチャレンジしてみても、フラベスは無理をしちゃだめだよ。



今月の表紙

2月4日、行田八幡神社で節分祭が行われました。

東日本大震災からの復興を願う気持ちが高まったことから、福を招き邪気を払うこの行事が15年ぶりに復活。福を求め、子どもからお年寄りまで、多くの方が境内に足を運びました。「鬼は外。福は内」と威勢のいい掛け声のもと、年男・年女の方は、福豆をまいて多くの参加者に幸せを届けているようでした。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。

ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています